



深田久弥

山の文化館だより

令和6年
冬号

深田久弥 山の文化館
〒921-0067
石川県加賀市大聖寺春場町十八
TEL 〇七六(七二)七二一三三三一
FAX 〇七六(七二)七二一一八一

北海道在住の芳賀淳子氏が書かれた絵本『アルバータ山のピッケルものがたり』を紙芝居にすることが出来た。これの子供たちに見てもらい、少しでも山に興味を持ってもらえれば幸いである。今後はこの紙芝居を多くの方々に利用して頂きたいと思っています。

『アルバータ山のピッケルものがたり』が紙芝居になった!!



すてきな絵本を紙芝居に ―経過報告―

芳賀淳子さん著作の絵本『アルバータ山のピッケルものがたり』を紙芝居にと思ったのは、札幌の芳賀家を訪ねたときのことでした。絵本の原画を拝見し、やわらかな色合いの水彩画の美しさに魅せられ、「紙芝居」にしてもっと多くの子どもたちに見せてはどうか、とお勧めしたのですが、淳子さんはたぶん困惑されたでしょう。

絵本は評判がよく、残り少ない在庫の一冊を分けていただきました。山にはこんな素敵な物語があることを伝えたい、そして多くの子どもにも山への関心を呼び寄せられたらとの思いを持ちながら十年近く過ぎました。

その後、絵本は「山の文化館」蔵書として収められました。そして、紙芝居にする手立てについて相談、原画の元版さえ使用できれば手作りも可能との結論を得ましたが、著作権や版権の問題がありました。

昨年聞こう会講師として来館の知人、荒井正人さん（日本山岳会図書委員）に相談、芳賀さんの意向打診を依頼し、快い承諾が得られ、館の事業としての取組みが始まりました。著者の意向を確認する何度かのメールで、絵本の元版のデジタル画像を入手できました。

試行錯誤の連続でしたが、手作りの紙芝居ができました。

制作の過程で、著者の提供の新たな資料を加え、ナレーションを工夫してパワーポイントのスライドも完成しました。今後、広く活用されることを期待し経過報告とします。

(大庭 保夫)

深田久弥生誕百二十年記念講演会



令和五年十月二十一日、講師に萩原浩司氏（山と溪谷社）を招いて

「深田久弥と日本百名山」と題して講演があり、引き続き、深田久弥とゆかりのある秋山泉、大久保博、中川博人の三氏を交えて座談会が行われた。いずれも聞きごたえのある内容で、参加された多くの聴衆を満足させることが出来た。講演会の前には、「深田久弥と百名山俳句大会」入賞者の表彰も行われた。



久弥と五万分の一地形図と赤鉛筆と その24

五万分の一地形図「丹波」と「谷村」を貼り合わせた嵩高い一枚があった。広げてみると通常の一・五枚分の大きさである。そして、

一面に、赤鉛筆のラインとペンでの多くの書き込みがあった。赤鉛筆のラインは初鹿野から嵯峨塩鉦泉を経て雁ヶ腹摺、小金沢山、大菩薩峠へと辿り、雲峰寺がある裂石に至っている。また、現在の国道四一―号線にも引かれており、地図の北から南の端まで赤い線が引かれている。地名では「はじかの」「嵯峨塩鉦泉」「ささご」を赤鉛筆で囲み、書き込みに至っては、大菩薩峠付近だけでも、妙見ノ頭、親不知、熊沢、小菅大菩薩峠、天狗棚山、鏡平など地理院の地形図に表記されていない地名が書き込まれている。その他一面にわたって、山、尾根、谷の名がびっしりと書き込まれている。現物をお見せする機会を作りたいものである。

この赤鉛筆のラインは、なんと、『日本百名山』『大菩薩岳』の冒頭に書かれている大正十二年（一九二三年）五月、第一高等学校

時代の山行のルートのようなものである。大正十五年には、逆に大菩薩峠から小金沢連嶺を歩いている。また、久弥は他にも昭和三十一年（一九五六年）に大菩薩峠に登っている。この時は、裂石から上日川峠を経て大菩薩峠に登り、石丸峠から日川源頭を下り日川沿いの道をたどり嵯峨塩鉦泉から初鹿野に至っている。この山行は『山があるから』の「大菩薩峠」に書かれているが、これにあたる赤鉛筆のラインは見当たらない。

深田久弥とヒマラヤの本

深田久弥と言えば『日本百名山』というのが一般的であるが、久弥にとって「ヒマラヤ」が人生を通しての一大テーマであった。研究のために集められた多くのヒマラヤの文献が九山山房を埋め尽くしていた。そして、それをもとに書かれた『岳人』の連載とその集大成である『ヒマラヤの高峰』、そのほかに『ヒマラーヤ山と人』、『ヒマラーヤ登攀史』がある。そして、ジュガール・ヒマール踏査行から帰ってメンバーそれぞれが著書を発表した。『雲の上の道』（深田久弥）、『氷河への旅』（深田、風見）、『ヒマラーヤ画集』（山川雄一郎）、『ネパールの山と人』（風見武秀）、『ヒマラーヤの旅』（古原和美）である。これらの著作をまとめて資料文献室に展示している。

間こう会予定

間こう会はリモートで二会場形式にて実施しています。（聴講無料）
午後一時半より三時
深田久弥山の文化館聴山房他

●一月二十一日（日）

演題…アルバータ山のピッケルものがたり
講師…深田久弥山の文化館

●二月十八日（日）

演題…遭難防止のためにできること
講師…飛弾 晶夫氏（富山県警察山岳警備隊長）

●三月十七日（日）

演題…カシミール3Dのたのしみ
講師…深田久弥山の文化館

●読書会のお誘い

『日本百名山』など深田久弥の作品を読んで、山やその自然、文化について語りあっています。お気軽にご参加下さい。（参加無料）

一月二十六日（金）

『日本百名山』より「阿寒岳」

二月二十三日（金）

『日本百名山』より「会津駒ヶ岳」

三月二十二日（金）

『日本百名山』より「乗鞍岳」

●場所…深田久弥山の文化館

●時間…午後一時半より三時

*詳細はホームページをご覧ください

編集後記

国民文化祭に明け暮れた一年が終わり、心新たに冬号をと思つているところに地震が襲ってきた。ほとんどの人が今まで経験したことのない揺れと恐怖を感じた。能登の惨状は筆舌に尽くしがたい。早く平穏な日常が戻るよう祈るばかりです。 Y